



第9回

人と自然の共生国際フォーラム

The 9th international Forum on Interrelationship between Nature and Human Beings

第9届 人与自然和谐共处国际论坛 | 제9회 사람과 자연의 공존 국제포럼 | 9º Fórum Internacional de Convivência entre o Ser Humano e a Natureza



自然と共に歩む 明日をつくらう

Building a Future for Nature and Humanity

与自然和谐相处，共创美好未来

자연과 함께 가는 내일을 만들자

Vamos construir um futuro para coexistir com a natureza

報告書 - 概要版 -

2015.10.3(土)

活動発表会・意見交換会

会場／パルティセト

2015.10.24(土)

人と自然の共生国際
フォーラム

会場／地球市民交流センター(愛・地球博記念公園内)



Kaisho SATOYAMA Forum

主催／人と自然の共生国際フォーラム実行委員会(愛知県、瀬戸市、愛知県国際交流協会、中日新聞社、名古屋大学、愛知県立大学、大学コンソーシアムせと、NPO法人海上の森の会、NPO法人オの木、あいち自然環境団体・施設連絡協議会)

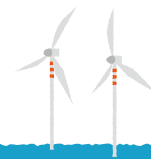
後援／総務省、環境省、経済産業省、農林水産省、長久手市教育委員会、一般財団法人地球産業文化研究所、一般社団法人中部経済連合会、名古屋商工会議所、独立行政法人国際協力機構(JICA)中部国際センター、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所、愛知県森林協会、公益社団法人愛知県緑化推進委員会、愛知県森林組合連合会、一般社団法人愛知県農林公社、愛知県自然観察指導員連絡協議会、森林インストラクター会「愛」

開催概要



第9回 人と自然の共生国際フォーラム

The 9th International Forum on Interrelationship between Nature and Human Beings



1. 開催趣旨

このフォーラムは、2005年に開催された愛知万博の理念や成果を継承し、人と自然が共生する持続可能な社会づくりを考えるため、平成19年度から開催しているものです。

愛知万博開催から10年目となる今年は、万博の原点である「自然の叡智」について、森林・里山、里海の現状とともに議論し、考えるフォーラムを開催しました。

2. テーマ

◆メインテーマ **自然と共に歩む明日をつくろう**
Building a Future for Nature and Humanity

◆サブテーマ **自然の叡智、つながり・ひろがり・これから**
Nature's Wisdom, Understanding, Connecting,
and Expanding to the Future

3. 開催日時・場所

活動発表会・意見交換会

◆平成27年10月3日(土) 10:00～16:00

バルティセと アリーナ(愛知県瀬戸市栄町45)

人と自然の共生国際フォーラム

◆平成27年10月24日(土) 10:00～16:40

地球市民交流センター(愛・地球博記念公園内:愛知県長久手市茨ヶ廻間乙1533-1)

4. 主催

人と自然の共生国際フォーラム実行委員会

(愛知県、瀬戸市、愛知県国際交流協会、中日新聞社、名古屋大学、愛知県立大学、大学コンソーシアムせと、NPO法人海上の森の会、NPO法人才の木、あいち自然環境団体・施設連絡協議会)

5. 後援

総務省、環境省、経済産業省、農林水産省、長久手市教育委員会、一般財団法人地球産業文化研究所、一般社団法人中部経済連合会、名古屋商工会議所、独立行政法人国際協力機構(JICA)中部国際センター、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所、愛知県森林協会、公益社団法人愛知県緑化推進委員会、愛知県森林組合連合会、一般社団法人愛知県農林公社、愛知県自然観察指導員連絡協議会、森林インストラクター会“愛”

10月3日 活動発表会・意見交換会



活動発表会（アクション・プレゼンテーション）

森林・里山、里海における「人と自然のつながり」をテーマに啓発・教育活動を実施した8団体が、活動成果を発表しました。

味わって欲しい愛の証 「六条潟のハマグリ」を全国の食卓で、再び

アジアの浅瀬と干潟を守る会

愛知県のハマグリは絶滅危惧ⅡB類となっている。これを水産資源として回復させるため、先進地の視察や遺伝子解析を行い、増やし、保全するための手順を検討した。今後、生息地への漁業権設定と立ち入り制限、資源回復計画の策定、水産試験場による調査研究、絶滅危惧種を食材とするための条例の制定などの施策が必要となる。



アートあそびプロジェクト 「森の中の小さな家～こども建前&アートな壁づくり～」

tre punte(トレプンテ)

自然と触れ合う機会が少ない子どもたちに、楽しくかつ自然を尊ぶ気持ちを持ってもらうためのプログラムをアートの要素を取り入れて実施している。今回は森と木のつながりを学び、木組みの家を建て、上棟式を行い、ビニールの壁に絵を描いて完成させるプログラムで、森の素晴らしさ、木の面白さ、大工さんの本物の技を体感してもらうことができた。



～学生 × 里山～里山を身近に感じよう！

愛知淑徳大学 エコのつぼみ

愛知淑徳大学の学生が、環境の啓発活動を行っている団体。里山の整備を進めるため、学んで発信することで同世代を巻き込みたい。今回は里山と水資源のつながりを学び、竹林の整備を実施した。里山のファンを増やすため、里山体験ツアーを開催し、学生に里山の抱える問題を知ってもらい、環境について考えるきっかけを提供した。



里山文化の継承と多文化共生社会をめざす ESD(持続可能な発展のための教育)事業

NPO 法人 愛・地球博プラットフォーム

環境活動と国際協力的な活動のコラボレーションを目的として、流域の環境問題について学んだ。異分野の交流による視野の拡大、在留外国人の社会貢献を兼ねたESD事業として、日系ブラジル人の子どもたちや留学生達とともに、間伐活動、干潟の清掃活動、伊勢湾の漂着ごみ清掃活動を行った。



たきみアートプロジェクト 「水で DOKI DOKI プロジェクト」

スローライフ研究会

自然資源、暮らし、減災をアートと結びつけることで、豊かな暮らしを提案し、ポジティブに減災を進める取組を行っている。今回は災害時に自然資源を活用して飲める水を作る方法を身につけるため、森の水涵涵養や浄化機能を学び、マイ浄水器を作り、水をボトル詰めして保存する一連のワークショップを開催した。



人も自然の一部なんだ ～森ヨガ・海ヨガ・島ヨガ～

Yoga Rainbow ヨガレインボウ

自然の中でのヨガが大変心地良いことを実感し、自然が人にもたらす癒やしの効果について知りたくなったため、自然が人の心身に与える影響を学び、その実践方法を多くの人に伝えることができる森ヨガ、ビーチでのサンセットヨガを開催した。



Forest House

Forest House

愛知県立芸術大学の学生と教員によるグループ。大学構内に生息する、絶滅危惧種も含む多くの生物について知ってもらい、保護活動につなげるため、現地調査を行い、図鑑を製作した。さらに自然に対する関心を持ってもらうため、図鑑を用いたワークショップを開催し、SNS等による広報活動を行った。

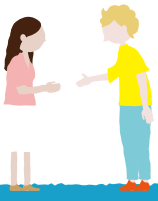


「森の幼稚園」「森遊び」のフィールド整備

口論義・森あそび応援隊

口論義運動公園に残された森を使い、森遊びができる場所づくりを始めた。竹林整備の研修会を行い、整備した竹林でインタープリターとして森遊び幼稚園、森の音楽会を開催した。今後も地域と一体になり、森の整備、活用を続ける。





意見交換会（グループディスカッション）

名古屋大学大学院生命農学研究科の田中隆文先生をファシリテーターに迎え、アクション・プレゼンテーションを行った8団体を含む参加者が、

- A. 里山の持続可能なライフスタイル、文化の継承
- B. 生物多様性の保全
- C. 森林環境の整備と保全
- D. バイオマス資源の有効活用の推進

の4つのテーマで5グループに分かれ、意見交換と発表を行いました。

発表後に、田中ファシリテーターから総括があり、すべてのグループの討論結果をひとことにまとめると「日々、みつめ、活かす、暮らしのつながり」となるのではないかとのコメントをいただきました。



A

里山の持続可能なライフスタイル、文化の継承

「里山的」というのがポイント。体験を通じてファンを増やし、里山的なライフスタイルへの意識を高める。人と人とのつながりが重要



B

生物多様性の保全

保全に対する見方、考え方もいろいろある。外来種問題、人間にとっての利害。保全を行うためには長期的な観察が必要



C

森林環境の整備と保全

自然林、^{そまやま} 杣山、里山に分かれる。奥山から杣山まではしっかりとした政策による人材の育成が必要。里山については自然とのふれあいがきっかけ。見返りを求めない愛が必要



D

バイオマス資源の有効活用の推進

間伐材の有効利用を進めるために、価格勝負を止め、日本のバイオマス資源に付加価値を付ける。

人間が使うエネルギーを生物由来でどう見つけるか。今の生活に無理せず使えるものを各自が使用機会を増やして有効利用することで幅が広がる。



特別講演

テーマ： 『 森 から 未来 を み る 』

講師

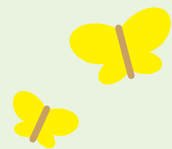


C . W . ニ コ ル

作家

一般財団法人C. W. ニコル・アフアの森財団理事長

1940年生まれ、イギリス南ウェールズ出身。カナダ水産調査局北極生物研究所技官、エチオピア帝国政府野生動物保護省・猟区主任管理官、シミエン山岳国立公園公園長、カナダ水産調査局淡水研究所主任技官、同環境保護局環境問題緊急対策官などを歴任し、1962年に初来日。1980年から長野県で執筆活動を始め、1986年に購入した荒れた里山に「アフアの森」と名付け、再生活動を始める。2002年、財団法人C. W. ニコル・アフアの森財団を設立して理事長に就任し、森の再生や環境教育、国際交流、震災復興プロジェクトなどを手掛ける。



講演内容要約（事務局文責）

私が最初に日本に来たのは東京オリンピックの2年前。目的はすごく単純で柔道と空手をやるために来ました。それでいつしか、30年間日本で森をつくっている。僕が客席側の立場だったら、なんで、どうして日本なのと思いますよね。

私の活動の動機をお話します。

南ウェールズの私が生まれた家からちょっと離れた所に古い森がありました。健康的な子どもは自然と遊んでないと駄目です。僕はすごく恵まれていました。

私が10歳のときに背の高いハンサムな英国海軍の男が新しく父親となりました。このおやじが本当に好きだったから、僕も海軍に入りたいと思いました。

英国では学校に行きながら12歳から海軍の訓練を受けます。習ったことは、ロープワーク、船のこぎ方。それから鉄砲しよって、制服、ブーツ履いて泳ぐ。射撃も覚えました。大変でしたが本当

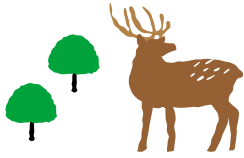
にためになりました。海軍では柔術も教えていたので、14歳から柔道も始めました。

その頃、おやじが世界中旅をして、母や僕に手紙を書いた。僕も広い世界に行きたい。12歳の私は探検家になると決めた。探検家になれるのは、当時はやっぱり海軍です。

ウェールズとイングランドの二つの国を行ったり来たりして、発音が違うから学校でいじめられていました。でも、新しいお父さんのおかげで広い世界が見えた。

16歳になっても、私、やっぱり学校が嫌いです。海軍に入りたい。でもおやじが駄目だって。僕はがっかりしました。海軍に入れない。でも北極に行くチャンスがありました。おやじのサインをずっと練習して、パスポートもらって、切符を買って北極へ行っちゃいました。

最後に20歳で総合的な探検隊に選ばれました。これは19カ月間の探検。21人でカナダ、北極に行き、学者がいろいろなことを研究します。僕は越冬隊で一番若かった。ただ、フィールドワークはできました。



そこでイヌイットと一緒に暮らして、犬ゾリ、カヤック、狩り、冒険。僕は大学行かなくても、そういう大学の先生がた、調査している人々の右腕になればいいと思いました。

22歳で長い探検が終わった。ずっと給料が払われていました。使い道はない。これからはずっと北極だな、でもな、講道館の畳の上で乱取りしてみたい。空手もやってみたい。ちょっと日本に行こうかな。それ、53年前で、まだいるの。どうしてだと思う？

僕は大都市にいと駄目です。広い空が見えないと魂が飛べない。だから僕は道場の先生に「先生、ごめんなさい。僕は北極に帰らないと駄目です。」と言いました。その先生は道場に來ていた若者に「こいつを山に連れて行け。」そこで初めて、私はかんじきを履いて、日本の冬の山を歩いた。雪洞を掘って、ろうそく立てて、小さなストーブで雪を溶かして食事した。その時の日記がまだある。「僕は日本で生まれたら良かったな。もっといい探検家になれた。」そういう雪山は英国にはなかったのです。

そのときから暇があったら日本の森、日本の山、日本の小さな島、歩きました。

イングランドの森林面積は当時 12 パーセントです。日本は 67 パーセントです。面積だけじゃない。日本はもともと縄文時代、弥生時代から木の種類が 1000 を超えています。生物の、森の多様性が違います。

日本にはすごい自然が残った。自然が残ったということは、文化が残った。だからすごく好きになりました。いろいろな冒険があつて、だんだんと僕の心は日本に落ち着いてきました。もう日本にずっと住む。私は他の外国人が書けない鳥、魚、木、動物、日本の自然と多様な文化を書こうと思った。

日本がものすごく豊かになったときに、残り少ない原生林をバサバサ伐っていました。僕は日本が好きだから日本に何ができるか。愚痴は言いたくない。だから僕は小さな森でいい、残してみよう。日本は大好き、日本に住みたいなら良くしたい。

どういふ森か。長年放置されヤブになったかつての里山です。その土地を買い始めた。

森はエネルギーです。森は水の母です。森は生きている。森の中で何か死んだら、その瞬間から新しい生命が生まれます。いろいろな生物がサイクルをつくって生きている。

でも、健康的な森は、光が下まで行かないと駄目です。買った森は放置された所。間伐して、林床に消えた植物を植えました。

光が入ると花が咲きます。花が咲くと昆虫が来る。そして小鳥が来る。小鳥は種を落としてくれる。また、間伐すると木と木の間に風が通る。風があると森はもっと健康的になります。今、面

積が 34 ヘクタール。50 ヘクタールまで続けます。

58 種類の絶滅危惧種が戻りました。カナダや英国でその話をすると、環境庁がすごくサポートしているのですねと言われます。でも何のサポートも受けていません。

日本の森は、日本の国の面積の 67 パーセント。無視しちゃ駄目、正しく使うべきです。67 パーセントの面積を無視したら、どんな未来になってしまうのか。

ウェールズでは、地元のお医者さんたちが森の散歩の処方箋を書くようになりました。でも、そのデータがないから、黒姫で私のドクターがボランティアの人たちで実験しました。効果ははっきり出ました。個人差はあつても、全員、血圧が安定し、免疫力が強くなりました。それからストレスが減りました。森の散歩は健康にいい。街の中の散歩ではそんなに効きません。

財団をつくりました。目の不自由な子どもたちを森に連れてきたかったからです。また、財団の理事の 1 人から、現在の日本の子どもの虐待の話を聞いて、深くショックを受けました。そういう虐待を受けた、いじめられた子どもたちも森に来ると元気になると思つて、13 年前にプログラムを始めました。

そうした子どもたちも森に来ると、顔が変わる。数時間で変わる。動作も変わる。子どもたちはお互いに手を出している。物を触っている。インストラクターたちに手を出している。トラウマを受けた子どもたちに街の中でそういう動作は見られない。

もう一つのテーマがあります。4 年半前の震災。われわれは子どもの森のプログラムをずっとやっている。森は癒しの場所。大人でも子どもでも、家族や友達が亡くなった、家や学校や仕事場が流された、いとしい街ががれきだらけ。その人たちを招待しようよ。できるだけ優しいもてなしをしたい。

27 人の皆さんが、いらした。最初、大人たちの顔には悲しみとか、疲れが見えました。子どもたちはずっと外で遊んでなかった。子どもたちは遊び始めたら、無邪気な笑い。そういう



Happy face が戻ったら、大人の顔も変わり始めた。それから大人だけの時間と話ができました。その時間が大人には必要だった。

思わぬ結果が出ました。正式に町から「ある学校を高台に移します。隣接している森も校舎にしたい。手伝ってください。」森の学校。学校が大嫌いな私が神様のいたずらで学校造りに参加している。学校ができるまであと 2 年。この学校は日本一の学校になる。本当に神様のいたずら。私はもともと外国人だけど、家族が増えました。22 歳のときに日本に来て良かったです。私の人生の大部分は日本です。日本は私を守って、私の家族も守ってくれました。僕は日本にお返ししたい。小さな森、生き生きした森。それで学校も手伝うことを、日本人から頼まれて、誇りに思っています。僕は 20 年前に日本国籍をいただいて本当に感謝して誇りに思っています。

私は食いしん坊で飲んべえで、昔の柔道のけががちちょっとあるけど、元気です。森のおかげです。森と日本の食事、日本の水。僕は死ぬまで生きている。そして、皆さんと同じように森と子どもの夢を追いかけてたい。

